

このことについて、次のとおり報告します。

1 建学の精神（ホームページ「フジコウの紹介」より）

キリスト教の価値観に基づき、頭（Head）と心（Heart）と手（Hands）を調和させながら育み、他者と共に生きることによって、自己実現をめざす人を育成する。

2 校訓（ホームページ「フジコウの紹介」より）

謙遜・忠実・潔白

3 教育目標

カトリックの「愛の精神」に基づき、一人ひとりを大切にして「心」を育てる。

4 重点項目

- (1) 教育・文理横断的、探究的な学びの強化・地域社会との連携と主体的な学び・キャリア教育
- (2) 募集・将来に向けた広報・生徒募集活動
- (3) 研修・研究・教職員研修、宗教研修・外部人材の活用
- (4) 行事(宗教行事を含む)・入学ミサ、卒業ミサの実施・行事内容の見直し
- (5) 施設設備関係・普通教室棟・特別教室棟
- (6) 財務・働き方改革・経費節減と環境保護
- (7) その他・組織の円滑化・教育方針の徹底
・体育館建設・教職員給与に関する財源確保

5 評価方法

評価方法は、次のとおり4段階とする。

A 十分に達成されている 3.5～ B おおむね達成されている 3.0～
 C 取り組まれているが成果が不十分である 2.0～ D 取り組みが不十分である 1.0～

4 自己評価結果

分野	評価項目	達成状況	年度ごとの推移		自己評価
					改善の方策
建学の精神・教育目標等	1 建学の精神と校訓は、今も引き継がれている。	B	25	3.1	【自己評価】 ・建学の精神、校訓は適切に引き継がれている。 ・保護者や地域のニーズ等を踏まえた教育目標が設定され、教育活動に反映されている。 ・昨年度B1、C3からオールB(4)に評価が上がった。 【改善の方策】 ・教育目標を実現するという意識を高く持ち、教育課程の不断の見直しに一層取り組む必要がある。
			24	2.8	
	23	3.1			
	25	3.2			
2 本校の教育目標は、生徒の実態、保護者・地域の要望を踏まえたものになっている。	B	24	3.0		
		23	3.1		
3 「学校教育目標を具現化する」という意識の下で日常の教育活動が行われている。	B	25	3.1		
		24	2.8		
		23	2.9		
4 学校教育目標に直結した教育課程を編成している。	B	25	3.1		
		24	3.0		
		23	2.9		

教育課程・学習指導	5	生徒の実態に対応した教育課程になっている。	C	25	2.7	【自己評価】 ・教育課程が生徒の実態に対応したものになっているか、見直す必要がある。 ・学力向上につながる指導方法が評価され始めたことが回答からみられる。 ・オンライン学習の出欠について、未整備である。 ・昨年度B1, C4からB4, C1に評価が上がった。	
				24	2.9		
				23	3.1		
	6	生徒の実態に即し、学力が向上するような教科指導をしている。	B	25	3.2		
				24	2.8		
				23	2.9		
	7	生徒の関心や意欲を高める授業や教科指導の工夫がなされている。	B	25	3.3		
				24	2.9		
				23	2.8		
8	教科指導において、学年や教科部会等の連携・協力が行われている。	B	25	3.3	【改善の方策】 ・生徒の実態を把握し、教育課程に反映する。 ・オンライン学習の取扱い等、学習指導要領の流れを組んで検討し、次年度改正する方向で動いている。 ・学ぶよこびを伝え、向上心を高められる指導方法をさらに模索する必要がある。		
			24	2.7			
			23	2.7			
9	評価基準・評価方法は生徒の学習状況を適切・客観的に評価するものになっている。	B	25	3.1			
			24	2.8			
			23	2.9			
進路指導	10	生徒の適性や希望を踏まえた適切な進路指導が行われている。	B	25		3.3	【自己評価】 ・進路指導については概ね適切に取り組まれている。 ・すべての項目でB(3)(昨年度はB1, C2)となった。 【改善の方策】 ・キャリア教育の柱として、進路指導と生徒理解であることを職員が深く理解し、学校全体として、分掌と学年の連携を深め、指導の充実をさらに図る。 ・キャリアコンサルタントを配置し、一人一人を大切に教育を推進する。
				24		3.1	
				23		3.0	
	11	進路に関する情報や資料が効果的に活用され、全校的な共通理解・協力が図られている。	B	25	3		
				24	2.9		
				23	2.7		
12	学年毎に系統的・計画的な進路指導が行われている。	B	25	3			
			24	2.8			
			23	2.9			
生徒指導	13	HR活動が生徒を健全な社会人として育成するよう行われている。	B	25	3.2	【自己評価】 ・不登校傾向のある生徒への対応、教育相談活動及び部活動については適切に取り組まれている。 ・挨拶や基本的な生活習慣、規範意識の高揚について及び校内の協同体制については取り組みはあるが十分ではない。 ・問題行動が大幅に減少した。 ・B4,C4(昨年度B2, C6)となり、成果が認められる。 【改善の方策】 ・生徒指導の提要是、進路指導と生徒理解であることを職員が深く理解し、学校全体として、分掌と学年の連携を深め、指導の充実をさらに図る。 ・不登校に対する対応は、大幅に改善されたことは評価できるので、さらに推進する。	
				24	2.8		
				23	2.9		
	14	挨拶や身だしなみ指導により基本的な生活習慣の確立、規範意識の高揚を図っている。	C	25	2.4		
				24	2.6		
				23	2.8		
	15	生徒会活動を通して自主独立の精神を養うとともに北見藤の生徒としての自覚や連帯感を育てている。	C	25	2.7		
				24	2.8		
				23	2.8		
	16	生徒会行事のねらいを全教職員が理解し、積極的に生徒の活動に関わっている。	C	25	2.8		
				24	2.6		
				23	2.6		
17	生徒指導に関して教職員間の共通理解や協力が図られている。	C	25	2.7			
			24	2.7			
			23	3.0			
18	心のふれあいを大切にし、いじめのサインや生徒の悩みの相談に積極的に対応している。	B	25	3.1			
			24	2.9			
			23	3.1			
19	不登校などの生徒の変化に適切に対応している。	A	25	3.5			
			24	3.0			
			23	3.1			
20	部(局)活動、各種の対外的な活動等が活発に行われている。	B	25	3.4			
			24	3.5			
			23	3.4			
21	HR担任と教科担任、部活動顧問が適宜連携し生徒指導を進めている。	C	25	3			
			24	2.9			
			23	2.9			

学校運営	22	担任と副担任の連携の下、学年が組織的に運営されている。	B	25	3.1	【自己評価】 ・「危機管理対応」について改善が見られた。 ・昨年度オールC(5)であったが、B(2)、C(3)に向上したが課題は多く残っている。 ・委員会が多いので、整理する必要がある。 ・学年部の業務を整理する必要がある。
				24	2.8	
				23	2.8	
	23	各分掌は、必要に応じて相互に連携を図りながら課題解決に取り組んでいる。	C	25	2.6	
				24	2.9	
				23	3.0	
	24	前年度の反省に基づき、各分掌や委員会等の活動計画が次年度にの反省を生かされている。	C	25	2.6	
				24	2.5	
				23	2.8	
	25	限られた時間の中で研修（全体、教科、個人等）が積極的に進められている。	C	25	2.6	
				24	2.6	
				23	2.8	
26	危機管理意識を高く持ち、不測の事態に適切かつ組織的に対応している。	B	25	3.0		
			24	2.7		
			23	2.8		
保護者・地域との連携	27	生徒指導について、家庭との連携や関係機関との連携が図られている。	B	25	3.0	【自己評価】 ・地域との行事により、社会が求めるコンプライアンスに対応しようとすると教職員の意識が高まってきたことは評価したい。 ・すべての項目でBとなったことは素直に評価したい。「昨年度B(2)、C(4)。問31は新規追加
				24	2.9	
				23	3.1	
	28	進路指導について、保護者の理解、関係機関との連携が図られている。	B	25	3.2	
				24	3.1	
				23	3.1	
	29	学校の方針や活動が保護者・地域に知らされ、理解されている。	B	25	3.0	
				24	2.6	
				23	2.9	
	30	生徒、保護者、地域社会の期待に応えられる学校づくりに取り組んでいる。	B	25	3.2	
				24	2.8	
				23	2.9	
31	win-winの関係を意識した地域資源を活用した教育活動が展開されている。	B	25	3.2		
			24			
			23			
32	PTA活動が充実した活動になるよう努めている。	B	25	3.1		
			24	2.8		
			23	2.9		
33	家庭訪問、懇談、各種通信等により家庭との連携が図られ、協力が得られている。	B	25	3.1		
			24	3.1		
			23	2.9		
【改善の方策】 ・委員会機能を移行したり、実態の応じた整理を行う。 ・研修について、働き方改革を考慮し、アクティブラーナーを導入しているが、受講者の意識に差異が生じている。さらに呼びかけて研修の充実を図る。 ・学年部の業務を整理し、生徒支援部と保健関係の見直しを行う。						
【改善の方策】 ・「令和の日本型教育の構築(個別最適化と協働的な学び)」、「ウェルビーイング」を踏まえ、地域が強く意識される必要が生じていることを教職員が深く理解し、さらに推進する。 ・地域連携協議会(魅力化推進委員会)を一層活発化し、北見マラソンや清掃遠足、平和スタディ等をブラッシュアップする。 ・生徒指導、進路指導において家庭との個別的な連携は図られているが、学校教育目標「カトリックの愛の精神に基づき、一人一人を大切に作る心を育てる」が共有されるよう、適切な情報発信に努める必要がある。						

教育 環境 整備	34	校内の安全確保のため、施設設備の維持・管理の取組が適切に行われている。	B	25	3.4	【自己評価】 ・校内環境の維持・向上については、昨年に引き続き適切に取り組まれている。 【改善の方策】 ・教材機器を丁寧に扱い、管理を徹底するなど、取り組みを工夫して耐用年数を延ばしていく。
				24	2.9	
				23	3.1	
	35	教材器具をはじめ、各種備品の整備・保管が適切に行われている。	C	25	2.9	
				24	2.9	
				23	2.9	
	36	本校には、仕事の事を含め管理職、同僚教職員に相談できる環境がある。	B	25	3.1	
				24	2.8	
				23	2.9	
総合 評価	総合的な評価についてあてはまるものを選んでください。	C	25	3.0		
			24	2.9		
			23	2.9		

【自己評価】

- ・陸上部をはじめ、理科部、チアリーディング、空手、三味線等、全国大会に進出する生徒が出るなど、勢いがみられた。
- ・一方で学力・学習意欲が低下した生徒、対人コミュニケーションに抵抗を感じる生徒が増加したが、対応しようとしている
- ・働き方改革の浸透と若手の台頭が著しく、職場環境が良くなり、学校評価も好転した。
- ・地域連携協議会(魅力化推進委員会)が円滑に機能し、地域のご協力を核に、大いに成果を上げている。

【改善の方策】

- ・今後は各項目でまとめた改善の方策を具体化し、キャリア教育を充実させることにより、教育課程を通じた教育目標の達成を目指す。
- ・「令和の日本型教育の構築(個別最適化と協働的な学び)」、「ウェルビーイング」、「働き方改革」、「知の総和」など、新しい課題にも引き続き取り組んでいく。

2025年度 北見藤高等学校学校評価（学校関係者評価）報告書

- 1 実施時期 : 2026年2月6日（金）～2月27日（金）
- 2 対象者 : 学校関係者 387名
- 3 実施内容

本校がまとめた2025年度学校評価について次の4段階により評価していた。

- 4 = 「上まわる」・・・期待を上まわっていると思う。
 3 = 「おおむね」・・・概ね適切な評価だと思う。
 2 = 「不十分」・・・物足りなく不十分な達成状況だと思う。
 1 = 「見直し」・・・計画・取組の見直しが必要と思う。

4 結果

	Q1. 「建学の精神・教育目標」の結果に対する評価	Q2. 「学習指導」の結果に対する評価	Q3. 「進路指導」の結果に対する評価	Q4. 「生徒指導」の結果に対する評価
評価結果	3.0	3.0	3.1	2.9
前年度	3.0	3.0	2.9	2.7
増減	0.0	0.0	0.2	0.2
	Q5. 「学校運営」の結果に対する評価	Q6. 「家庭との連携」の結果に対する評価	Q7. 「環境整備」の結果に対する評価	Q8. 「総合」の結果に対する評価
評価結果	3.0	3.1	3.0	3.1
自己評価	3.0	3.0	3.1	3.0
増減	0.0	0.1	▲ 0.1	0.1

○2025年度 北見藤高等学校 第三者評価

評価者 8名 内訳：本校支援組織代表

町内会(1)、各種ボランティア団体(5)、小売業地域役員(1)、市内大学教授(1)

第3者評価者を、学校評議員から、上記の地域の方々に変更しました。「地域との連携」について追加しました。

※ 評価点の算出方法
 ・評価点を1.0～3.0…A、3.0～2.0…B、2.0～1.5…C、1.5～1.0…Dのランクに分けたもの
 ・達成状況のAと☆印は成果が上がっている、★は十分に上がっていないと考えられるもの

評価項目	十分	おおむね	不十分	まったく	無回答	評価点	達成状況	
Q1 「建学の精神・教育目標」の結果に対する評価	2 25%	5 63%	0 0%	0 0%	1 13%	3.29	☆	A
Q2 「学習指導」の結果に対する評価	1 13%	6 75%	0 0%	0 0%	1 13%	3.14	☆	A
Q3 「進路指導」の結果に対する評価	2 25%	5 63%	0 0%	0 0%	1 13%	3.29	☆	A
Q4 「生徒指導」の結果に対する評価	3 38%	4 50%	0 0%	0 0%	1 13%	3.43	☆	A
Q5 「学校運営」の結果に対する評価	2 25%	6 75%	0 0%	0 0%	0 0%	3.25	☆	A
Q6 「家庭との連携」の結果に対する評価	2 25%	4 50%	1 13%	0 0%	1 13%	3.14	☆	A
Q7 「地域との連携」の結果に対する評価	7 88%	1 13%	0 0%	0 0%	0 0%	3.88	☆	A
Q8 「環境整備」の結果に対する評価	3 38%	5 63%	0 0%	0 0%	0 0%	3.38	☆	A
Q9 「総合」の結果に対する評価	2 25%	5 63%	0 0%	0 0%	1 13%	3.29	☆	A

意見等

・民主的で自由な印象を受けた。各教員が努力して柔らかい校風が築けていると思う。町内会では子供たちと積極的に関わることがないため、学校近くにあるので、活力をもらえるなど恩恵がある。町内会にとっては良い環境にあり、最大のメリットである。次年度はさらに協力関係を進めていきたい。
 ・自己評価について、生徒指導の19(不登校など生徒の変化に適切に対応している)がA評価であるのは素晴らしい。学校が安心感をどのように生徒と作りあげていくか、が重要。
 ・近所では生徒からは挨拶も先にしてもらえるなど活力をもらえている。
 ・不登校の生徒が、教員やクラスの努力で通学が可能になり、卒業までできた。今日において素晴らしいと思うため、今後も継続して取り組んでほしい。
 ・女子高時代は閉ざされたイメージがあったが、生徒の様子が見え、開かれているように思える。学校の生徒の活動をもっと広めていくとよいと思う。
 ・色々な地域の大人が関わっているということを生徒に意識させることができればよい。
 ・地域活性化のアイデアを考えるにとどまらず、実行してみるの苦労や努力が今後の人生に行かされるのであれば素晴らしいと思う。
 ・北見藤はフレンドリーに接してくれている。積極的に参加をしてくれているため助かっている。大人でも挨拶ができない人が多い。できなくても学校でしっかりと教えていければよいと思う。地域とのかかわりのファーストステップとしても重要であるので、積極的に教育をしてもらいたい。
 ・地域と学校が連携するためには、対等性を考えていくべき。結果として生徒に選んでいくため。韓国の学校では売店を自主的に運営する。実際の活動を通して実社会の商売を学んでいく。日本での実施は難しいかもしれないが、コープさっぽろとの連携などを通じてできていくとよいのではないかと考えた。